

# 上越教育大学教職大学院スタンダード

## ストレート院生用

(令和6年度在学生から適用)

事項	I 教職に必要な素養に関する事項	II 学習指導に関する事項	III 生徒指導・学級経営に関する事項	IV 特別支援教育に関する事項	V ICT活用指導力に関する事項	VI 教育実践研究に関する事項
A 理論	教職への誇りと情熱、児童生徒への愛情、新しい時代における学校及び教職の意義や社会的役割・サービス・危機管理等の知識や視点の意味と重要性を理解するとともに、自己の教育観・授業観を確立しようとしている。	子供の心身の発達や学習過程に関する理論、各教科等の専門的知識を実践に生かすことや、教科横断的な視点等から常に実践の改善を図るカリキュラム・マネジメントの意味と重要性について説明することができる。	児童生徒と公平かつ受容的・共感的に関わり、信頼関係を築くことの大切さを理解し、児童生徒間の共感的な人間関係を構築する方法や適切な生徒指導の在り方について説明することができる。	特別支援教育の意義や理念を理解した上で、一人一人の子供の実態把握と自立活動の指導目標及び指導内容の設定や合理的配慮について説明することができる。	デジタルとアナログの違いやよさを理解した上で、ICT活用の基本となる新しい知識(情報モラル・情報セキュリティを含む)や技能を身につけようとしている。	教育実践を意味づけ、方向づける教育思想や理論的視点、最新の教育実践研究の成果や知見にアクセスすることができるとともに、学校現場の教育課題に応じてそれらを常に改善、更新することができる。
B 実践	学校教育に対する社会のニーズを意識して、自ら新たな教育課題を見だし、教育実践を省察しながら、よりよい未来の実現に向けて行動するとともに、不断に学び続け自らの専門性と実践力を高めていくことができる。	子供の興味関心を引き出す教材研究を行い、子供の実態を把握した上で、単元を通して育む資質・能力やねらいを明確にし、子供が自ら課題を見つけ、解決していく学習者中心の授業を創造し、実践することができる。	日常的な観察や会話、教育相談等を通して、いじめ等の問題行動の未然防止や早期発見・対応ができる。また、児童生徒一人一人と信頼関係を築き、それぞれの可能性や活躍の場を引き出す集団づくり(学級経営)を行うことができる。	特別な支援を必要とする子供一人一人の実態把握と、指導目標及び指導内容を計画し、適切な指導及び必要な支援の実践や合理的配慮の提供を行うことができる。	教科の特性や児童生徒の発達段階に応じて教材研究や授業準備を行ったり、効率的に校務を行うために、適切にICTを活用することができる。	学校現場における課題の解決に資する教育実践研究を教育実践研究方法論に基づき、教育実践を客観的・記述的な事実として見取り、学問知(理論的視点や実践研究の知見)から適切に解釈・分析・考察しながら創造的に推し進めることができる。
C 協働	他の教員、保護者、地域の人等の声を敏感に感じ取り、他者の立場で考え共感できる感受性を持ち、協同的な人間関係をつくることできる。また、自身や学校の強み・弱みを理解し、他者との協力や関わりを通じて課題を解決しようとしている。	校内研修等において教材研究の段階から授業研究に参画したり、自らの授業実践に対して指導・助言を求めるなど他の教員と積極的に関わりながら、授業改善の方策を考案することができる。	生徒指導上の問題や学級経営上の課題について、同僚や管理職と協働して問題解決できる。また保護者や地域との関係を構築し、協力を得ながら生徒指導や学級経営に取り組むことができる。	特別な支援を必要とする子供の実態把握や適切な指導及び必要な支援のために同僚や管理職と協働し、個別の指導計画の作成と活用に取り組むことができる。	児童生徒の情報活用能力の育成や様々な学校課題の解決に向けて、周りと協力しながらICTを活用することができる。	学校現場における様々な課題について、異なる立場の人々と協働しながら臨床的な理論や方法を用いて分析し、チームでの解決策を提案できる。
D リーダーシップ・経営	学校組織マネジメントの意義を理解した上で、限られた時間や資源を効率的に用いつつ、学校運営の持続的な改善を支えられるよう、校務に積極的に参画し、組織の中で自らの役割を見だし、責任をもって果たすことができる。	カリキュラム・マネジメントの視点から、組織の一員としてかつ計画的に教育課程を編成・実施し、常に学校の実態に応じて改善しようとしている。また、自ら授業提案者となるなど、他の教員と協働しながら積極的に授業研究に参画しようとしている。	他の教職員や関係機関等と連携しつつ、児童生徒と受容的・共感的に関わりながら、担任として学級の秩序を守り、学級集団をよい方向に牽引し、生徒指導や学級経営に取り組むことができる。	学校が決定した特別な支援を必要とする子供への合理的配慮について、組織の一員として適切に提供し、評価・改善の一役を担うことができる。	自分のICTスキルを活かし、自分が所属する組織の一員として、様々な課題の解決に向けて貢献することができる。	学校の教育課題の解決にチームで取り組む教育実践研究に積極的に参加し、より確かな教育実践研究結果に基づいて他の教員との共通理解を図るなど、チームの中で自らの役割を見だし、学校における教育改革を推進するリーダーを補佐することができる。

上越教育大学教職大学院スタンダード

現職院生用

(令和6年度在学生から適用)

事項	I 教職に必要な素養に関する事項	II 学習指導に関する事項	III 生徒指導・学級経営に関する事項	IV 特別支援教育に関する事項	V ICT活用指導力に関する事項	VI 教育実践研究に関する事項
A 理論	新しい時代における教育、学校及び教職の意義や社会的役割・服務等を理解するとともに、教職への誇りと情熱、児童生徒への愛情の基礎となる自己の教育観・授業観を更新し続けながらより確かなものとしようとしている。	現代の教育について考える新しい教育思想や理論的視点、教育実践研究の知見等から、自らのこれまでの授業実践を省察し、意味づけ、方向づけることができる。	児童生徒と公平かつ受容的・共感的に関わり、生徒指導や学級経営に関する専門的理論を理解しており、その知見を生かした指導計画の整備の在り方について説明することができる。	特別支援教育の意義や理念、法令や制度に基づく教育方法について、学術的及び臨床的又は実践的な視点から説明することができる。	授業および校務におけるICT活用と情報モラル・情報セキュリティについての専門的な新しい知識や技能を身につけようとしている。	教育実践を意味づけ、方向づける教育思想や理論的視点、最新の教育実践研究の成果や知見にアクセスすることができるとともに、学校現場の教育課題に応じてそれらを常に改善、更新することができる。
B 実践	学校教育に対する社会のニーズを意識して、自ら新たな教育課題を見だし、教育実践を省察しながら、よりよい未来の実現に向けて行動するとともに、他の教員を支援し、リードしながら不断に学び続け自らの専門性と実践力を高めていくことができる。	自らのこれまでの授業実践を省察し、意味づけ、方向づける理論的視点等から教科書教材の価値を理解するとともに、授業のねらいに基づいて新たな教材を開発し、提案性のある授業を展開することができる。	いじめや不登校等の現状について情報収集し、未然防止や早期発見・対応に向けて組織的に対応し、指導・支援ができる。また生徒指導や学級経営の取組について同僚や若手教員に指導・助言することができる。	特別な支援を必要とする子供のために関係教員と連携し、個別の指導計画に基づいた自立活動及び自立活動の時間の指導と関連付けた各教科等の授業計画及び授業実践ができる。	学習場面に応じて、個別最適な学びと協働的な学びを実現するためのICTを活用した授業を構想し、実践することができるとともに、児童生徒が情報モラルを身に付け、適切にICTを活用できるよう指導することができる。	学校現場における課題の解決に資する教育実践研究を教育実践研究方法論に基づき、教育実践を客観的・記述的な事実として見取り、学問知(理論的視点や実践研究の知見)から適切に解釈・分析・考察しながら創造的に推し進めることができる。
C 協働	他の教員、保護者、地域の人等の声を敏感に感じ取り、他者の立場で考えることに努め、特に若い教員を支援する適切な指導助言を行いながら相互の良好な関係を基に教育活動を遂行することができる。	他の教員の日々の授業実践を参観し、臨床的な理論や方法等に基づいて指導上の課題を適切に指摘し、授業改善のポイントを個の力量に応じて指導助言することができる。	生徒指導上の問題や学級経営上の課題を、その解決に向けて教職員・SC・外部機関と連携・協働して組織的に推進することができる。また保護者や地域との連携を強化して生徒指導等を行うことができる。	特別な配慮を必要とする児童生徒の個別の指導計画や個別の教育支援計画に基づいて学校内及び学校外の関係機関と連携し、組織的・継続的な支援を行うことができる。	児童生徒の情報活用能力の育成や様々な学校課題の解決に向けて、教職員一人一人のICT活用指導力を活かして協働して取り組むことができる。	学校現場における様々な課題について、異なる立場の人々と協働しながら臨床的な理論や方法を用いて分析し、他のメンバーを支援し、リードしながらチームでの解決策を提案できる。
D リーダーシップ・経営	学校組織マネジメントの意義を理解した上で、管理職を補佐する形で学校運営について創造的なビジョンの構想やプラン構想に参画し、教育活動を活性化すべく、組織の中で一人一人の教員の特性を生かしながらリードする役割を担うことができる。	学校全体の学習上の諸問題を把握し、各学校に応じた教育課程の開発や授業改善を小・中・高連携の視点をもち、組織的に進めることができる。また、その際、自ら模範となる授業実践を行ったり、他の教員の授業改善のための指導助言等を行うことができる。	児童生徒と受容的・共感的に関わりながら、リーダーシップを発揮して学級担任や学年主任として全体の秩序を守り、学級経営や学校経営に参画することができる。	学校の実態に応じた特別支援教育に関わる校内体制の構築や特別の教育課程の編成、関係機関との協働した課題解決について組織的に推進することができる。	児童生徒の情報活用能力および教職員のICT活用指導力の現状と課題を把握し、組織的に改善に取り組むことができる。	学校における教育改革を進める管理職を補佐する形でより確かな教育実践研究結果に基づいて他の教員と共通理解を図りながら推進するリーダーとして、各学校の教育課題の解決に資する教育実践研究を組織的・創造的に進めることができる。